

# 令和7年度 消防設備関功労者等表彰式

## 栄誉に輝く塩谷 智彦 氏

令和7年10月17日（金）午後3時30分より、東京都港区赤坂の明治記念館2階「蓬萊の間」において、消防庁と一般財団法人日本消防設備安全センターの共催による「令和7年度 消防設備関功労者等表彰式」（消防庁長官表彰、安全センター理事長表彰）が厳粛かつ盛大に挙行されました。

会場には全国各地から多くの受賞者と関係者が参集し、晴れやかな雰囲気に包まれる中、当協会推薦による株式会社東京電機（茨城県つくば市）代表取締役社長であり、現・一般社団法人日本内燃力発電設備協会（内発協）理事を務める塩谷智彦（しおや・ともひこ）氏が、消防機器開発普及功労者として「消防庁長官表彰」を授与されました。

式典冒頭には、消防庁の大沢博長官が登壇し、受賞者ならびに随行者一同に対し、長年の尽力を労う

温かい式辞を述べられました。

今回、栄えある「消防庁長官表彰」に輝いた塩谷氏は、本年5月30日付で「全国消防機器協会会长表彰」を受賞したのに続く栄誉となりました。会長表彰の際と同様に、「永年に亘り、非常電源としての自家発電装置の普及促進や維持管理に取り組み、消防用設備に対する安全確保と安定した電源供給のために尽力した功績」が高く評価され、今回の長官表彰へと繋がりました。

塩谷氏は、非常用自家発電設備に関するメーカーの社員、そして経営者として、昭和56年度から令和6年度まで実に44年間にわたり、累計約3万台に及ぶ自家発電設備の製造・販売に携わり続けてこられました。その歩みは、消防用設備の非常用電源として社会に安定した電力供給をもたらし、防災の基盤



表彰式の会場全景



式辞を述べられる大沢博消防庁長官



代表者授与



授与に際して起立する塩谷智彦氏

を支えるものとなりました。令和5年度（推薦時集計対象年度）においては、内発協の集計によれば、設置台数別シェアで業界第3位となる982台を納入し、長年に亘り防災用自家発電設備の普及に大きく貢献されています。

なお、令和7年度消防庁長官表彰の受賞者は、（1）消防設備保守関係功労者表彰30名、（2）消防機器開発普及功労者表彰29名、（3）優良消防用設備等表彰として施設・設備等の建設・導入に携わった設置者・設計者・開発者・施工者の1件18社でした



消防機器開発普及功労者表彰受賞者集合写真

た。式典では司会者により全受賞者の氏名が読み上げられ、続いて代表者が登壇。大沢博長官が表彰状を朗々と読み上げ、代表者に授与された瞬間、会場は大きな拍手に包まれました。

式典終了後には、同館2階「富士の間」にて祝賀会が催され、受賞者や関係者が一堂に会して晴れやかなひと時を共有し、互いの功績を称え合う和やかな時間が流れました。防災の未来を担う人々の努力と情熱が結集したこの一日を、参加者は深い感慨とともに胸に刻まれたことでしょう。



祝賀会開会あいさつをする日本消防設備安全センターの西藤公司理事長



大沢博消防庁長官と塩谷智彦氏  
(写真中央2名 左から大沢博消防庁長官と塩谷智彦氏)



祝辞を述べられる上月良祐参議院議員



祝杯をあげられる塩谷智彦氏



祝辞を述べられる古川康衆議院議員